

7 意外と知らない! 割の企業が 見過ごしている業務のムダとは



69%

ムダを徹底排除し もっと強い企業へ

企業を強くするためにはさまざまな方法がある。コア業務ではないムダな作業を効率化してコストを削減することも、収益体質の強化につながる。業務を効率化すればその分、社員はより付加価値の高いクリエイティブな仕事に集中できるようにもなるだろう。ITを使って業務を効率化すればケアレスミスが減少し、社員のストレス低減やモチベーションの向上に結び付くかもしれない。そしてそれは、企業の競争力強化をも促進するはずだ。

制作・東洋経済企画広告制作チーム

Business
ASPECT

ラクス



経費精算業務に 5,335時間を費やす

いつの時代にも企業にとって、業務の効率化は重要な課題である。とりわけ現在のように入グローバルな規模で企業間競争が激化している状況下にあつては、業務の効率化による生産性の向上は、勝ち残るための優先順位の高い課題といえる。

もちろん企業もそうしたことは十分認識しており、さまざまな領域で業務の効率化に取り組んできた。だが、多くの企業が見過ごしてきた領域が、まだある。交通費や出張費などの経費精算業務だ。

実際に、経費精算業務にどれほどの時間とコストがかかっているのか、正確に把握している企業は少ない。しかし従業員数1000人規模の企業の場合、なんと年間約5,335時間もの時間を経費精算業務に費やしているというデータがある（ラクス試算による）。

夕方、外回りから帰ってきた営業社員はまず報告書を書

き、それからおもむろにその日使った交通機関の運賃をネットで調べ、それを伝票に記入したり表計算ソフトに入力したりする。が、当日中に伝票に記入できることはほとんどないだろう。社内の打ち合わせや上司への報告などに追われ、ついつい後回しにしてしまいがち。記憶を頼りに何日分かをまとめて計算した

りもする。当然、記憶違いや漏れが発生しやすい。入力間違いもあるだろう。

ムダの削減が競争力の強化に

IT時代、ネット時代と言われながら、現実のオフィスではこのような光景が毎日のように繰り返されているので

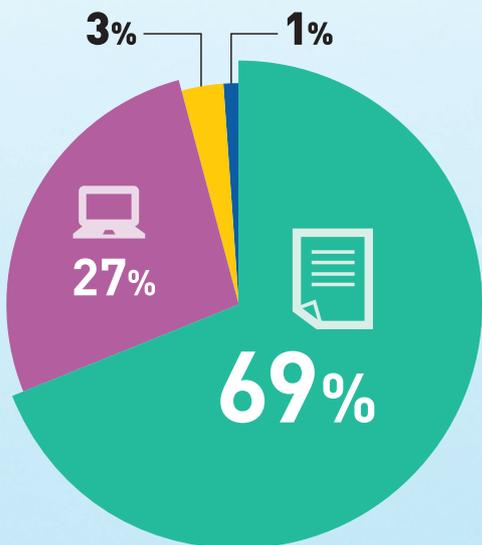
はないだろうか。ラクスの調査によれば、経費精算業務を紙や表計算ソフトで行っている企業の割合は、69%にも達している。

コスト削減や業務の効率化がこれだけ指摘されている中で、なぜ経費の精算業務は見過ごされてきたのか。

その答えの一つは、関心の薄さ、ではないだろうか。交

通費などの経費精算業務は他社と比較する機会もほとんどなく、非効率ということに気がつかない企業も多い。それほどどこか経費精算業務に関しては、効率化とかコスト削減という発想すらない企業も少なくないという。そのため経費を申請する社員にとってもそれを承認する上司にとってもムダの多い面倒な作業であ

Q 現在、社内でのように交通費や経費の申請・精算を行っていますか。



- 紙・Excelで処理している
- システムを利用している
- グループウェアを利用している
- その他

経理担当者（課長以上）777名を対象にした調査（出所ラクス／2015年9月）

年間 5,335時間



経理業務
1,007時間



承認業務
1,830時間



申請業務
2,498時間

り、事後処理をする経理にとっても大きな負担になっているにもかかわらず、多くの企業で放置されてきたのだと想像できる。

しかし、経費精算のムダを削減できれば、申請者である社員も承認者である上司も入力や確認などの単純作業に追われる経理も、浮いた時間をもっと生産的で重要な業務に使うことができる。そうすれば当然、生産性は向上し、企業の競争力、成長力の強化にもつながるだろう。

経費精算業務においては、国も電子帳簿保存法の改正を行うなど、企業の非効率な作業を効率化させることを後押ししている。昨年、従来は3万円未満の領収書しか電子保存できなかったが、金額を問わず可能になるなど要件緩和が行われた。こうした制度改正は、経費精算業務を見直すよい機会となるだろう。

では、どうすればいいのだろうか。
ここで注目したいのが、ITを用いた経費精算システム

である。なかでも今、急速に普及し始めているのは、クラウド型システムだ。

ケアレスミスの防止でスピーディな処理を

クラウド型であることの利点は、初期投資を抑えられるところにある。さらに、たとえば交通機関における運賃改定などの反映等、バージョンアップを利用者側で行う必要がない。また、システム化することで、交通系ICカードの利用履歴データを取り込めるようになり、記憶違いや入力ミスなども防ぐことが可能になるのだ。誤った入力の確認作業が減るだけでも、承認者や経理担当の負担は減る。

問題は、こうしたシステムで経費精算業務がどれくらい効率化でき、どれほどのコスト削減効果が得られるかだろう。
ラックスの試算によると従業員1000人規模の企業の場合、システム導入前は経費精

算業務に年間約5335時間を要していたが、導入後はそれが約1113時間に減っている。およそ5分の1に圧縮されたことになる。しかも詳細を見ると、申請、承認、経理というそれぞれの業務で時間削減を実現している。ということとは、申請者、承認者、経理のいずれにとっても、メリットをもたらすシステムということになる。

削減できるのは、時間だけではない。

システム導入によってそれまで年間約1980万円かかっていたコストが約597万円と、3分の1以下にまで減るという試算も出している。年間1400万円ほどのコスト削減効果が生まれているということだ。

導入実績ナンバーワンの経費精算システム

クラウド型経費精算システムとして、2年連続累計導入社数ナンバーワン(※)の実績を誇るのが「楽楽精算」。

1,000人規模企業の導入前・導入後

- データ出所 ラックス試算による
- 承認フローは3ポイントと設定(申請者→課長→部長→経理担当)
- 人数の内訳は営業担当380人/課長(1次承認者)40人/部長(2次承認者)18人/経理担当(経理承認者)8人として試算

約 $\frac{1}{5}$ に削減

年間 **1,113** 時間
51時間
244時間
818時間

中小企業から大企業まですでに1300社以上が導入している。
いったいどこが評価されているのか。まず挙げなければならないのは、使い勝手のよさだ。
たとえば、交通系ICカードを専用のリーダーにかざすだけで申請データが作成できる。さらに、スマートフォンのカメラ機能で撮影した領収書を添付する機能もあるため、申請作業は格段に楽になる。一方、承認者である上司は移動中でもスマートフォンで確

「楽楽精算」導入のメリットとは

たとえば



申請者

交通系ICカードをかざすだけで交通費の申請データが作成でき、入力時間の短縮が可能。外出先からスマホで領収書を撮影して申請ができる。



承認者

社内の経費精算規程に違反した申請にはエラー表示が出るため、見落としを防止できる。また、スマートフォン対応なので外出先から承認が可能。



経理

申請時に勘定科目と申請データが自動で紐づけられるため、手作業による仕訳、集計の必要がない。会計ソフトとも連携しており、入力作業の省力が可能。

「楽楽精算」利用企業の声

出光リテール販売株式会社

月間250時間かかっていた支払業務、仕訳業務が数時間でできるようになりました。本社と12カンパニー分を処理していたのでグループ全体で改善が図れました。



富田 様



オイシックス株式会社

表計算ソフトで処理していたときは、社内の立替経費の精算作業に毎月4日程度かかっていました。「楽楽精算」導入後は、手作業で行っていた仕訳データや振込みデータが自動で作成できるようになったため、1日に短縮することができました。



松本 様 河路 様

認、承認ができるのでわざわざ経費精算のために会社に戻る必要がない。
経理担当者ももちろん楽になる。申請時に勘定科目と申請データが自動で紐づけられるため、手作業による仕訳や集計の必要がない。また、会計ソフトとも連携しており、手入力しなくてよいため、省力化できるほか、人的ミスも防止できる。

「楽楽精算」は
月額費用3万円から
加えて、初期費用は10万円、月額費用は3万円からという価格設定も高評価のポイントだという。専任のスタッフによる導入支援や利用時のアドバイスなどにも定評がある。「楽楽精算」は交際費や国内・海外出張の精算にも対応しており、日当などの出張手

当も自動計算可能だ。ある企業の担当者は「ラクスを選ばない理由が見つからなかった」と述べているほどだ。今まで放置されてきたともいえる経費精算業務の効率化。それが実現できればコスト削減は言うにおよばず、付加価値の高い本来業務に社員が集中できるなど、有形無形のさまざまなメリットが期待できる。ラクスでは、ほかにも業務

の効率化を加速させるツールを提供している。たとえばWEB帳票発行システム「楽楽明細」は、紙の請求書、納品書、支払明細などを電子化し、発行業務を効率化できるほか、印刷費や郵送費などの削減も実現する。会社をより強くし、持続的成長を獲得するために、今こそさまざまな業務効率化を真剣に検討すべきではないだろうか。

「楽楽精算」の資料請求・無料お試しなどのお問い合わせはコチラ

TEL:03-6675-3623

(平日9:30~18:00)

詳しい内容はコチラ

<https://www.rakurakuseisan.jp/>

楽楽精算

検索